

地域住民に地球活動を伝える際に大切なこと

～地球科学系ポスドクから学芸員（補）へ転職して4年間の気づき～

The Important Things in Communicating Earth's Activity to Local Residents: the Awareness during Four Years after Changing a Job from a Geoscience Postdoc to a Curator

*金山 恭子¹

*Kyoko Kanayama¹

1. 鳥取県生活環境部山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館

1. San'in Kaigan Geopark Museum of the Earth and Sea, Tottori Prefectural Government

私は4年前、大学の研究者から鳥取県の学芸員の職へ転職しました。転職後、私のコミュニケーションの対象は地球科学大好きな研究者や大学院生から、地球科学に出会ったことがない地元の人や行政職員に変わりました。彼らに地球科学の面白さを知ってもらうにはどうしたらいいのでしょうか？

私は、地球科学の面白さは、「地球（大地）が活動している」ことを感じる・想像できるようになることだと考えています。しかし、一般の人の多くは、その面白さに触れる機会がほとんどないため、地球科学に興味を持っていないと感じます。一人でも多くの人に「地球が活動していること」を分かりやすく伝えることが学芸員としての使命だと考えています。

学芸員としての4年間の経験から徐々に見えてきたのは、地球活動を伝える際に、地元の人が見てきた風景や生活の記憶と大地の成り立ちを結びつけて語り、歴史や生物等と大地の関係性を語ることが、聞き手の地球活動への興味につながるかもしれない、ということです。今回の講演では、このことを含め、私が学芸員の仕事を通して得られたいくつかの気づきをお話したいと思います。

キーワード：地球科学、ジオパーク、インタープリテーション

Keywords: Earth sciences, geopark, interpretation